

おわりに

◆ 福井国体が終了しました。雨の開会式スタートでしたが、歓迎の県民パフォーマンスに出場された方々の笑顔に、胸が熱くなり、雨の冷たさも吹っ飛びました。弓道競技では、成年男子唯一の県内出身（越前市）だった田中選手が、近的予選リーグ決勝リーグとも全ての矢を的中させ、団体6位入賞です。

同じく越前市出身、成年女子の右原選手も大前（一番手）として大活躍で団体4位入賞！お二人とも、「お見事！」とか言いようがありません。

片や裏方は、数年前から準備を積み重ねてきたにもかかわらず、台風のために日程や競技の進め方などを変更せざるを得ず、大わらわでした。私も夫が近的競技の運営責任者だったので気をもみましたが、無事に終わってほっとしています。ところで国体は、人生にも影響します。昭和59年、夫は国体の、私は北信越国体の弓道代表で、その強化練習がきっかけで知り合い結婚したのでした。

福井国体のおかげで、すっかり忘れかけていた話を思い出しましたワ。

（一）

◆ 田圃の稻刈りも終わろうとしています。今年は雨続きで、地面の乾き具合も不安定、稻刈り日を見定めるのに苦労されたのではないかと推察します。本当に疲れ様でした。

我が家もうちで食べる分程度の田圃があり、毎年コシヒカリを作っています。

たが、今年は稻刈りが国体と重ならないよう、早稲のハナエチゼンにしました。

我が家もうちで食べる分程度の田圃ませたものの、他の田圃が気になつて「台風で稻が倒れてしもたなあ。」

「雨で倒れてなかなか刈れない」と、発芽して困るやうな。」「日本晴れば、台風の後でも倒れず立つてゐなあ、強いなあ。」

と車窓を眺めながらの夫婦の会話です。

また、稻の育ちに様々な特徴があるのと同じく、お米の味や炊き方にも個性があるようです。

特に気になつているのは県の開発した「いちほまれ」。売れ行きもそうですが、「水少し少なめに」とかいう他とは違うお米の炊き方です。これで美味しい評価が得られるでしようか。

そうしたところ、なんと、品種ごとに炊き方を設定できる炊飯器が登場です。

50種類の品種対応とのことですから「いちほまれ」もうまく炊けそうです。ほとんどのやう、お米の戦国時代を実感するやう…。とともにかくにも、

『頑張れ、福井のお米！』

県政報告会

10月17日（水）

午後1時半～

昭和会館

今庄75字東中町6

10月19日（金）

午後7時～

コミュニティセンター村国

国高郵便局の角を村国山の方へ曲がり正面の建物

10月26日（金）

午後7時半～

月尾サブセンター
轟井町21-29-1

細川かおり県政報告H30.10

発行：福井県議会議員 細川かおり

事務所：越前市村国1丁目2-11

TEL・FAX 42-5888

障がいのある方々に關した質問



細川かおり県政報告

第41号

法定雇用率の水増し問題で話題の「障がい者雇用」について

細 車いすのお子さんが在籍する学校に対し、県立学校間では階段昇降機の貸し借りを行つてゐるが、市町の小中学校にも貸し出したり、そのための県の設備ストックを増やしたりして、インクルーシブ教育の補助をすべきでは。

教 市町に対して整備を促すとともに、キャタピラーのついた階段昇降車の情報提供をしたうえで、県立学校の機器の貸与などを行つてまいりたい。（2月議会）

細 養護の先生が、補聴援助システムといった障害を助ける様々な機器や社会支援制度の知識を広め、アドバイスできるようになります。

教 昇降車や補聴援助システム以外にも、インクルーシブ教育推進のために、優れた補助具を貸し出しができるよう、それぞれの特別支援教育の予算を増額すべきではないか。

教 小中学校の教育的ニーズに応じて学習環境の改善がなされるような対応をしていきたい。

細 県庁の「障がい者雇用」としてカウントされている方々のうち、手帳を持たない方はどのくらいか？

県 厚労省のガイドラインでは、産業医の診断書による障がい確認も認められている。職員が手帳の交付を希望しない場合などであるが、警察・教育委員会を除いた県庁部署では4割が該当。採用後の事故・病気については、自己申告によって確認している。

細 障がい者の雇用実態をつかむことを求めるとともに、中小企業も含め、差別なく配慮ある雇用を提供している事業所が増えるような刺激策を求めるのが、今後も実現している。

産 優先調達は人口当たり全国5番目と高い。県で施行した「共生社会条例」の考え方では、合理的配慮や自立、そして社会参加の促進を進めることとしている。

細 多様な方の活躍できる職場環境を整えてほしい」ということ、「働きやすい企業」を表彰している。障がい者も含めた働きやすさを、指標を用いて「働きやすい福井企業」として認定したい。指標は詰めている段階で、数値で表し評価できるものとしたい。



「福井しあわせ元気大会」の成果を、バリアフリーやユニバーサルデザインといった「障害や年齢、性別、能力などの如何に関わらず利用できる」環境整備や、共生社会推進の追い風にすべきと考えています。

仕事で精神を病んで障害認定にならないよう、働き方改革は大事なポイントです

治水対策

6年前、アメリカ東海岸をハリケーン「サンディ」が襲いました。ニューヨークでは深刻な高潮の浸水被害が発生、地下鉄、道路は水に浸かり、公共交通機関は運行を停止しました。被害額は約8兆円で、米国災害史上2番目に大きな経済損失となりました。

その後ニューヨーク市では、「気候変動に

くしたと聞いていますが、アメリカは速やかに劇的・徹底的に対応策を取るので感心します。

ICPPは「21世紀末までに、極端な高温の増加がほぼ確実。また中緯度の陸域のほとんどで、極端な降水がより強く、より頻繁となる可能性が非常に高い。」と警告しております。ダ・イギリスなど欧米諸外国においては、すでにその適応策に着手し、洪水防護壁や高潮堤の整備や土地利用の改善を行っています。

日本でも「気候変動適応策に取り組む」と国交省は言いますが、当面の目標とする治水安全度すら未達成の低い状況です。

将来を見据えた治水対策は喫緊の課題です。知事の考え方をお聞かせください。

知事 気象に起因する自然災害が、激甚化・頻発化する状況であり、被害への対応は極めて重要な課題であります。県は、ハードの施設だけでは守り切れない

洪水は必ず発生するとの考え方で、ソフト・ハード両面から治水対策を推進していく考えに立っています。

ソフト対策として、想定し得る最大規模の降雨を対象に洪水浸水想定を行い、ハザードマップに活用すべく幅広い範囲で公表。

ハード対策として、河川改修等を着実に進めるとともに、より発生する可能性の高い、中小規模の洪水に対する安全を確保してまいりたいと思います。

幕末明治150年ですが、県の歴史書やお雇い外国人の日記とか、手紙などを見ても、その当時、地震、風水害、特に火災が、毎年というか、年に何回も発生している状況でありまして、今とどう違うのかなと思わざるを得ないわけであります。しかし、時代が変わつてもそんなに進歩しているのかどうかは、なお課題かなと思っております。

また、河川整備したところに住宅を近接させて、何十年か経つと、また被害を受けるとの事態がよく見えますので、今後は『都市計画面での対応』も重要だと思います。

(⇒大賛成!)

将来の安心安心のために（防災）



地震・液状化現象

8月に、千葉県で地震の調査を行いました。東日本大震災の時、習志野市や浦安市では液状化現象が酷く、土が流れ波打ち、地盤沈下、段さなどができ、砂が噴き出す「噴砂」があちこちで起きたそうです。地面の中の土がシャツフルされるわけですから、家が傾き、地面が伸びたり縮んだり、特徴的な被害の状況でした。

ここに着目したのは、昭和23年に起きた福井地震が、巨大な『液状化現象』だったからです。

福井震災については、「福井烈震誌」という、1400ページにも及ぶ福井地震の記録があります。当時の市の職員の方が、発災直後から足を運んで様々なところでの聞き取りを行った、貴重で膨大な資料です。

〔6月28日17時13分、福井地方は未曾有の大地震に襲われた。〕

『ごおつ』という不気味な振動とともに、地面は大波のようにうねり、地上の建物は一瞬のうちに倒壊、人々は地面にぶつけられた。」「福井市中央部では、地震直後砂煙たちのぼり、あたかも爆弾落下後のような感じがした。湧水があり、砂を噴出したところが諸所。県庁の片側、濠になつてある道路の亀裂は、幅50㌢で深さは2メートルもありそうに見える。」

「幹線道路の路盤は厚いが、裏道の薄いところに被害が多かった。損傷部分だけではなく全体的にやり直しで長期化した」「国のがれ災者生活再建支援制度は液状化現象には適用しにくい」

といつたことです。これらを教訓に、「もし現代の福井で地震・液状化現象が起きたら」と考え、備えるべきです。

液状化現象に対しても研究・啓発するに、少なくとも、下水管や上水管などの継ぎ目を耐震ゴムにする取り組みを促進すべきではないか伺います。

〔土木〕 下水管施設の耐震化は重要で、県管理の九頭竜川流域下水管では、マンホールの改築の際に浮き上がり防止対策を含めた耐震対策を実施しております。下水管につきましても、今後、改築・更新にあわせて耐震化を順次進め、マンホールとの継手の部分を変形に強い構造にするとか、液状化しにくい土を用いて埋め戻すなど、現地条件に応じた耐震対策を検討してまいります。

この質問提出の直後に、大阪湾の高潮災害、北海道の地震・液状化現象が起きました。被災地と被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

「和田中町では、田の泥土が、波高一尺程度の泥津波となつて襲来。」

「酒生村。足羽川堤防落差約1m、長さ4m沈下。田には湧水や噴砂があり稻苗は泥砂をかむつたところもある。この村から東郷村を望んでいた人の話によると、一列に並んだ家が端からひとつずつ潰れるのを目撃したそうである。」

「河合村。地震前、多量に湧出していた井戸が、地震発生と共に多量の土砂を噴出。」

「森田町。地割れの大きいもんでは、幅1m以上のモノが認められた」